



Release

フランクフルト・アム・マイン

2019年11月22日

ドイツ銀行、FSBによるG-SIBバッファ要件の引き下げへ

ドイツ銀行は、金融安定理事会（FSB）により本日公表された、グローバルなシステム上重要な銀行（G-SIB）の2019年リストにおいて、昨年よりバッファ要件の低いバケットに区分されました。FSBの2019年リストにおけるG-SIBの分類において昨年より下位のリスク・バケットに区分された銀行は、G-SIB全30行のうちドイツ銀行のみでした。

2019年の調査において、FSBは5つのカテゴリー、すなわち、規模、法域を越える活動、相互連関性、代替可能性および複雑性において、ドイツ銀行のシステム・リスクが低下したと評価しました。これは主に、業界全体での改善に加え、当行のレバレッジの低減、事業および地理的基盤における戦略上の調整、ならびにデリバティブの取引高の減少によるものです。

これを踏まえ、FSBはG-SIBとしてのドイツ銀行の資本保全バッファ要件を2.0%から1.5%に引き下げました。この引き下げは、ドイツ連邦金融監督庁（BaFin）による正式通知後に発効します。

他方、ドイツ銀行は、そのホームマーケットにおける地位から、国内のシステム上重要な銀行（D-SIB）としての資本保全バッファは現時点で2.0%となっており、結局当行としてのバッファ要件は現時点では変更がないこととなります。

また、FSBによる2019年の評価では、G-SIBに対するレバレッジ比率バッファが法的に要請されることになる2022年1月1日より、当行のレバレッジ比率要件が4.0%から3.75%に引き下げられることとなります。

FSBの2019年リストにおけるG-SIBの分類は、2018年12月31日現在のデータに基づいています。したがって、この評価におけるドイツ銀行のスコアには、当行の改革戦略の一環として、2019年に入ってキャピタル・リリース・ユニットにより非戦略的資産の削減が進められたことは反映されていません。

ドイツ銀行について

ドイツ銀行は、事業法人、各国政府、機関投資家、中小企業、および個人といった顧客に対し、商業銀行、投資銀行、リテール・バンキング、トランザクション・バンキング、および資産運用の商品ならびにサービスを提供しています。ドイツ銀行はドイツ有数の銀行であり、欧州地域に強固な地位を築いているほか、米州およびアジア・太平洋地域においても大規模な事業基盤を有しています。

本リリースには、将来の事象に関する記述が含まれています。将来の事象に関する記述とは、歴史的事実ではない記述であり、ドイツ銀行の考えや予想、およびその基礎となる前提が含まれます。これらの記述は、ドイツ銀行グループの経営陣が現在入手可能な予定、推定および計画に基づいています。従って、将来の事象に関する記述は、あくまで当該記述がなされた日現在のものであって、当グループはこれらの記述に関して、新しい情報や将来生じた事象があっても、これを更新して公表する責任は負いません。

将来の事象に関する記述は、その性質上リスクおよび不確実性を含みます。従って、いくつかの重要な要因が作用して、実際には将来の事象に関する記述に含まれるものとは大きく異なる結果となる可能性があります。これらの要因には、ドイツ、ヨーロッパ、米国および当グループが収益の相当部分を上げ、資産の相当部分を

有するその他の地域における金融市場の動向、資産価値の推移および市場のボラティリティ、借り手または取引相手による将来の債務不履行、当グループの経営戦略の実施、当グループのリスク・マネジメントの方針、手続および方法への信頼性、ならびに米国証券取引委員会（SEC）への情報開示に関連するリスク等が含まれます。このような要因については、SECに提出した当グループの2019年3月22日付年次報告書（Form 20-F）の「リスク・ファクター」の表題のもとで詳しく記載されています。当該報告書の写しは、請求により入手可能であり、また www.db.com/ir からダウンロードすることができます。